

日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門 実施に関するガイドライン

0 (前文)

このガイドラインは、世界のフットオリエンテーリング種目が、ロング・ディスタンス、ミドルディスタンス、スプリント、リレー、(最近ではスプリントリレーも加わっているが)の4種目になって、わが国のインカレチャンピオンを決める場を全種目持つべきであると、5年前から議論が始まり、一旦時期尚早で否決をしたものの、その後も議論を重ね、2回の実験・試行大会を経てようやく正式発足可能かどうかの決議を出来るところまで行き着いた。これはその長い議論と多くの汗を流した中で共通認識として挙げられたことを、IOF(世界オリエンテーリング連盟)のガイドラインも参考にしつつ、纏め上げたものである。スプリント種目は町の中や公園で実施可能な種目で本場欧州とテレイン的なハンディは少ないといわれているが、渉外的な実施環境においては、社会の理解度等雲泥の差があり、日本での本格的なスプリント競技の実施には大きなハードルが存在しているといわざるを得ない。そんな中で、スプリント種目も他の種目と同様、インカレチャンピオンを目指すことが大きな目標となるような、価値を持つ大会にまで成長するために、必要な事項をガイドラインとして規定する。当面、規則では書ききれないことや、その時々で柔軟かつ高度な判断が求められる時の拠り所となるものである。このガイドラインは価値が根付いたかどうかによって、新たな問題解決を求められることもあるだろう。よって、およそ5年の歳月をもって見直すものとする。本文中、“当面の間”と述べられているものは、特に定着の度合いによって、見直すべき項目である。

1 (目的)

このガイドラインは、日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門(以下、インカレスプリント)の実施を円滑に行うために、規則では規定しきれない事項をガイドラインとして定める。

2 (要件の優先順位)

当面の間はインカレスプリントを新たに創設し定着させていくことが第一目的となる。インカレスプリントの「継続性」が最も優先的な価値観として、他の要件を判断していくことになる。次に重要なのが、「観客の多い環境」である。次が「テレインの質」、「コースの質(ルートチョイス・間断ない判断のストレス)」などの競技性、「公平さ・公正さ(偶然性の排除、一般客への対応・コントロールの置き方、地図の見易さ等)」、「メディアのコントロール(註:日本ではあまりスポットが当たらないが、中継放送のある欧州ではこれも横並びの重要項目)」などが並列してある。これら全部を満たす環境を用意することは至難の技である。どれを重要視するかは、その時々でのシチュエーションによるが、「継続性」を第一に、「観客の多さ」を第二にして、これらの要件を判断してインカレスプリント開催していく。

3. 開催日程

日本学生オリエンテーリング選手権ロング・ディスタンス競技部門(以下、インカレロング)の前日に開催することを原則とする。但し、2.で述べる要件の優先順位から判断して分断開催することも有りうる。

4. 主管

大会を運営母体となる主管は、インカレスプリント実行委員会とする。インカレスプリント実行委員会は、日本学生オリエンテーリング連盟(以下、日本学連)インカレスプリント担当理事によって招集される。

インカレロングの前日に開催する場合、主管をインカレロング・スプリント実行委員会として構わない。

また、インカレスプリントのみにおいては、当日役員として日本学連の加盟員を招集しても構わない。

5. 予算

開催する環境によっては、インカレスプリントの大会会計が赤字になることも十分ありえる。その際は継続性の障害とならないよう、赤字分は日本学連の会計から補填する。インカレスプリント・インカレロング一体開催の時に会計を切り分けることも現実的ではない。その際は大会のアウトラインが見えてきた段階で、詳細な見積もりを実行委員会が提出し、幹事会でその決済を行う。但し、赤字が補填できる限度は、別に定めてある日本学連の会計規定で、幹事会での決済可能額の範囲内とする。

地図調査にかかる費用は上限 25 万円とし、特別な事情によりそれ以上の費用がかかる場合は、スプリント担当理事が日本学連幹事会において理由を説明する。

6. 設置クラス

選手権クラス以外のクラスの有無および形態については、インカレスプリント実行委員会の判断による。

7. 選手権クラス競技者数

男子 60 人、女子 30 人とする。

8. 選手権クラス出場選手選出方法

『日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門 競技者数及びその配分に関する規則』に従う。

9. インカレロングモデルイベント

インカレロングの前日にインカレスプリントを開催する場合、インカレスプリント当日にインカレロングモデルイベントを併催することが望ましいが、その時の環境によっては、タイムスケジュール的にインカレロングモデルイベントの開催が困難な場合は開催しなくても構わない。

10. アドバイザ

アドバイザは、当面の間、前の大会で重要職を勤めたものが就くことを強く求める。また経験度の高い者複数が就任することも強く求める。インカレロングとの兼任をしないことが望ましい。アドバイザの経費は、日本学連の会計から別に支弁される。アドバイザは、インカレスプリント担当理事とともに、2 項で述べた必要要件の優先順位について、多面的に検討し大所高所からのアドバイスをを行う。

11. 実行委員会

実行委員会は、当該インカレの 1 年前までに理事会の承認のもとで組織される。

12. インカレスプリント実行委員会の承認

『日本学生オリエンテーリング選手権実施規則』に従う。

13. 本ガイドラインの見直し

インカレスプリントの定着度、また回数を重ねるに従って新たに出てきた問題点などを洗い出して、およ

そ5年を目途に、本ガイドラインはその時の情勢に合わせて見直すものとする。

14. 本ガイドラインは平成27年3月9日より施行する。

平成27年3月9日 制定

【説明1】

スプリント・ロングの2日間大会の時も、また2日間大会であっても実行委員会は分離（テレインの配置によっては有り得る事）、また分離日程開催になっても通用するように書かれている。

【説明2】

アドバイザーには、経験者の就任を当面強く求めるとした。（理事会の承認要件としてとても大きな要素）就任者の距離・交通費の問題もあるかと思うので、予算に迷惑をかけないよう別会計とした。

（実はロングもアドバイザーは別会計が基本なんだけど、最近は実行委員会で包括してしまっている。それが元で交通費圧迫がと実行委員会の方で理由付けされないようにするために、あえて書いた）尚、ここでは書いていないが、インカレスプリント担当理事も、ロング担当理事とは兼任不可である。

以上